

高松市立栗林小学校 体力向上プラン

【学校教育目標】

よく学び よく遊び よく働く 子どもを育てる

「確かな学力の定着」「健やかな心身の育成」「心の豊かさの実践」

【本校の現状と課題】

①「新体力テストの数値分析の結果」より

- 多くの学年でボール投げ、シャトルランの記録が低く、県平均を下回っている。
- 総合評価 $\{(A+B) - (D+E)\}$ の数値が、6年男子、3・5年女子がマイナス値である。

②「運動に対する意識・運動習慣」についての分析より

- 休憩時間には、楽しそうに体を動かす様子が見られるが、一部児童に限られている。
- 体育の授業では、体育館を4年生以下は2クラスずつ、運動場では3クラス合同で行う学年もある。体育備品や消耗品を児童数にあった整備が必要になる。

【取組み】

遊ぶ場所の確保

- ・体育館や屋上や2階、3階テラスを開放して運動を行えるようにする。安全面の配慮として、教員が必ずつく、走らない、テラスや屋上での運動を縄跳び、長縄のみとする。
- ・運動場等での遊ぶ場所が明確になるように、各クラスに「栗っ子運動場の使い方」を配布し、教室に掲示するとともに、栗林スタANDARDにも一緒に綴じ、職員にも周知する。

体力向上プロジェクト

- ・各学期に、「体力づくり月間」を設ける。1学期は6月に握力、2学期は11月に俊敏性、3学期は2月に持久力の向上を中心にペア学年での活動で楽しく体力づくりを行う。
- ・「讃岐っ子パワーみんなでチャレンジ」に登録し、楽しみながら取り組めるようにする。
- ・ボール投げでは、「大谷グループ」の学級巡回活用や、投げる感覚を養う授業を展開していく。
- ・委員会の活動で、様々な遊びを紹介し、多様な動きを高める工夫をする。

体育備品・クラス配当品の充実

- ・体育館や運動場だけではなく、屋上や中庭に鉄棒やジャンピングボードを置くなどし、体を動かせる環境を作る。
- ・業間休みと昼休みには、ボール倉庫を開放することで、運動場で児童が様々な運動に取り組めるようにする。
- ・柔らかいボール2つや長縄、マーカーコーンなどをクラスに配布し、いろいろな外遊びができるようにすることで、運動場に出て遊ぶ児童の割合を増加させる。

【目標】

①「新体力テストの数値における目標」

- 20mシャトルラン、ソフトボール投げ、反復横跳び（5.6年生）、の記録を県平均に近づける。

②「運動に対する意識・運動習慣における目標」

- 「Kagawa2024 体力番付」に参加し、体を動かすことの楽しさを味わい、習慣として運動する子どもを育成する。
- 児童アンケートの運動に関する肯定的な意見の割合を、80%以上にする。